

立命館大学大学院
2021年度実施 入学試験

専門職学位課程

教職研究科
実践教育専攻

入試方式	実施月	専門科目		小論文	
		ページ	備考	ページ	備考
一般入学試験	9月	P.1~			
	11月	P.9~			
	2月	P.17~			
社会人入学試験	9月			P.6~	
	11月			P.14~	
	2月			P.22~	
学内進学入学試験	9月				
	11月				
	2月				

【表紙の見方】

×・・・入学試験の実施がなかった等の理由で入学試験問題の作成がなかったもの、または、問題を公開しないもの
斜線・・・学科試験(筆記試験)を実施しないもの

2022 年 4 月入学 教職研究科
一般入学試験（2021 年 9 月実施）

筆記試験（専門科目）

試験時間
10 : 00 ~ 12 : 00

■受験にあたっての注意

1. 配布された冊子と受験科目が一致しているか確認してください。
2. 試験開始の合図があるまで、この問題用紙を開けてはいけません。
3. 下書き用紙はこの冊子の中に入っています。必要に応じて活用してください。
4. 解答はすべて解答用紙に記入してください。
5. 試験開始の指示があった後、本冊子の表紙及び解答用紙の全ページに受験番号、氏名を記入してください。
6. 本冊子も試験終了後に回収します。

受験番号	氏 名

1. 次の文章を読み、問いにすべて答えなさい。

ICT (Information and Communication Technology) の発展により、社会は高度に情報化がなされ、それにともない、学校教育においても、ICT の活用が多くなされるようになってきた。現在進行している GIGA スクール構想は、学校教育において、ICT 環境の整備を進める事業である。なお、GIGA は、Global and Innovation Gateway for ALL を略した語である。

文部科学省リーフレット「GIGA スクール構想の実現へ」(2019 年)には、GIGA スクール構想の概要として、以下の 2 点が示されている。

- ・ 1 人 1 台端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備することで、特別な支援を必要とする子供を含め、多様な子供たちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる教育 ICT 環境を実現する。
- ・ これまでの我が国の教育実践と最先端の ICT のベストミックスを図ることにより、教師・児童生徒の力を最大限に引き出す。

また、同リーフレット追補版(2020 年)には、GIGA スクール構想実現の加速に向けての環境整備として、児童生徒の端末整備支援、学校ネットワーク環境の全校整備、緊急時における家庭でのオンライン学習環境の整備、GIGA スクールサポーター (ICT 技術者) の配置があげられている。

新型コロナウイルス感染症の流行のもとで、各学校においては対面授業が困難になり、多くの学校が休校を余儀なくされた。休校中に、宿題プリントの配布を行った学校が多くみられたが、オンラインによる指導が実施された学校もあった。そのような中、学校間における ICT 環境の格差が問題となり、各学校における ICT 環境整備が急務となった。また、各家庭への ICT 環境整備支援も重要である。

一斉学習、個別学習、協働学習といったあらゆる授業形態において、ICT 活用により、よりよい学びを実現することが考えられる。また、各教科等において、調べ学習、表現や製作、課題の発表、学習歴の蓄積、遠隔地との接続など、さまざまな目的に応じた、ICT 活用が考えられる。これまでは実現できなかった学びを構想することも可能となった。さらに、ICT によって、学業成績、学習過程、出欠、健康状況等、児童生徒のあらゆる情報が管理され、活用されることが考えられる。

他方で、学校や家庭において ICT 環境が十分に整備されたとしても、ICT 活用を進めていくにあたっては、多くの課題が出てくることが予想される。各学校が組織として対応し、すべての児童生徒の学びを支えてゆく必要がある。

今後、ICT 環境の整備が加速化すると、従来の対面教育の意味、さらには、学校や学級、教師の役割が問い直されることにもなるだろう。

【問 1】

本文中で、「さまざまな目的に応じた、ICT 活用が考えられる」と書かれています。授業において、具体的にどのような ICT 活用が考えられますか。校種と教科を明示して具体例を述べなさい。(400 字以内)

【問 2】

本文中で、「学校や家庭において ICT 環境が整備されたとしても、ICT 活用を進めていくにあたっては、多くの課題が出てくることが予想される」と書かれています。どのような課題が考えられるか、述べなさい。(400 字以内)

2. 次の2つの問いから1つを選択し、400字以内で説明せよ。**(解答用紙に、選択した問題の番号を記載すること)****【問1】**

2021年度中の改訂に向けて検討が進んでいる『生徒指導提要』（文部科学省、2010年）は、1965年に文部省（当時）が『生徒指導の手引』として刊行し、1981年の改訂版を経て、現在の形に至っています。その中では、教科における生徒指導という視点が提示されています。あなたは、学級担任や教科担任として、各教科等の授業において「生徒指導」の視点からどのような工夫や取組を行いたいと考えますか。校種と教科を明示して具体例をあげて述べなさい。

【問2】

あなたが担当する授業に、日本語を母語としない外国人児童生徒がいた場合、どのような支援や配慮が必要だと考えますか。校種と教科を明示してあなたの考えを述べなさい。

3. 次の6つの用語の中から、3つを選択し、それぞれ 200 字以内で説明せよ。
(解答用紙には、選択した番号及び用語名を記入すること)

- ① 愛着(アタッチメント)
- ② フェアトレード
- ③ 反転授業
- ④ 学校図書館の「居場所」機能
- ⑤ 生徒会(児童会)活動
- ⑥ PDCA サイクル

2022年4月入学 教職研究科
社会人入学試験（2021年9月実施）

筆記試験(小論文)

試験時間

10 : 00 ~ 12 : 00

■受験にあたっての注意

1. 配布された冊子と受験科目が一致しているか確認してください。
2. 試験開始の合図があるまで、この問題用紙を開けてはいけません。
3. 下書き用紙はこの冊子の中に入っています。必要に応じて活用してください。
4. 解答はすべて解答用紙に記入してください。
5. 試験開始の指示があった後、本冊子の表紙及び解答用紙の全ページに受験番号、氏名を記入してください。
6. 本冊子も試験終了後に回収します。

受験番号	氏名

1. 次の文章を読み、論題に答えなさい。

ICT (Information and Communication Technology) の発展により、社会は高度に情報化がなされ、それにともない、学校教育においても、ICT の活用が多くなされるようになってきた。現在進行している GIGA スクール構想は、学校教育において、ICT 環境の整備を進める事業である。なお、GIGA は、Global and Innovation Gateway for ALL を略した語である。

文部科学省リーフレット「GIGA スクール構想の実現へ」(2019 年) には、GIGA スクール構想の概要として、以下の 2 点が示されている。

- ・ 1 人 1 台端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備することで、特別な支援を必要とする子供を含め、多様な子供たちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる教育 ICT 環境を実現する。
- ・ これまでの我が国の教育実践と最先端の ICT のベストミックスを図ることにより、教師・児童生徒の力を最大限に引き出す。

また、同リーフレット追補版(2020 年) には、GIGA スクール構想実現の加速に向けての環境整備として、児童生徒の端末整備支援、学校ネットワーク環境の全校整備、緊急時における家庭でのオンライン学習環境の整備、GIGA スクールサポーター (ICT 技術者) の配置があげられている。

新型コロナウイルス感染症の流行のもとで、各学校においては対面授業が困難になり、多くの学校が休校を余儀なくされた。休校中に、宿題プリントの配布を行った学校が多くみられたが、オンラインによる指導が実施された学校もあった。そのような中、学校間における ICT 環境の格差が問題となり、各学校における ICT 環境整備が急務となった。また、各家庭への ICT 環境整備支援も重要である。

一斉学習、個別学習、協働学習といったあらゆる授業形態において、ICT 活用により、よりよい学びを実現することが考えられる。また、各教科等において、調べ学習、表現や製作、課題の発表、学習歴の蓄積、遠隔地との接続など、さまざまな目的に応じた、ICT 活用が考えられる。これまでは実現できなかった学びを構想することも可能となった。さらに、ICT によって、学業成績、学習過程、出欠、健康状況等、児童生徒のあらゆる情報が管理され、活用されることが考えられる。

他方で、学校や家庭において ICT 環境が十分に整備されたとしても、ICT 活用を進めていくにあたっては、多くの課題が出てくることが予想される。各学校が組織として対応し、すべての児童生徒の学びを支えてゆく必要がある。

今後、ICT 環境の整備が加速化すると、従来の対面教育の意味、さらには、学校や学級、教師の役割が問い直されることにもなるだろう。

【論題】

文中に書かれているように、学校教育においては、ICT 環境の整備が進められています。ICT を活用することによって、これまでのあなたの授業実践をどのように変えたいか（すでにされている方は、さらにどのように変えていきたいか）、具体的に述べなさい。またその際に留意すべき点についても述べなさい。なお、文中に、校種と教科を明示すること。

（1600 字以内）

2022年4月入学 教職研究科
一般入学試験（2021年11月実施）

筆記試験（専門科目）

試験時間
10：00～12：00

■受験にあたっての注意

1. 配布された冊子と受験科目が一致しているか確認してください。
2. 試験開始の合図があるまで、この問題用紙を開けてはいけません。
3. 下書き用紙はこの冊子の中に入っています。必要に応じて活用してください。
4. 解答はすべて解答用紙に記入してください。
5. 試験開始の指示があった後、本冊子の表紙及び解答用紙の全ページに受験番号、氏名を記入してください。
6. 本冊子も試験終了後に回収します。

受験番号	氏名

1. 次の文章を読み、問いにすべて答えなさい。

2021年1月、中央教育審議会から『「令和の日本型学校教育」の構築を目指して：全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びの実現』（答申）が出された。この答申は、2019年4月より今後の初等中等教育の方向性を議論する中で、とりわけ新型コロナウイルスが学校教育に与えた影響も加味して、まとめられている。この答申では、2017年に告示された学習指導要領の確実な実施を前提とし、子どもたちの資質・能力を着実に育んでいくための方策が述べられている。

ここでいう「日本型学校教育」とは、歴史的に見て、日本の学校教育が学習面での指導だけでなく、社会性の涵養といった面においても指導や支援を行ってきたという、「知・徳・体」を一体として教育活動を展開してきたことを意味している。いわば、全人格的な陶冶を目指してきたのが日本型学校教育であるといえる。

しかしながら、答申では、これまでの日本の学校教育は、たとえば1989年の学習指導要領で「個性を生かす教育の充実」が謳われながらも、「みんなと同じようにする」といった画一的な教育から十分に脱することができていないこと、またこれまでコンテンツ（教育内容）ベースの教育を展開してきた結果として、「知識の習得」「正解主義」といった学習観から抜け出せずにいるという課題を指摘している。これ以外にも、日本の学校教育が直面している課題として、子どもの発達特性や社会背景等において多様化が進んでいること、学習意欲の低下、教師の長時間労働、Society5.0時代を見据えたICT対応への遅れなどをあげている。

これらの課題に対応するために打ち出されたのが、「令和の日本型学校教育」である。これは「ツールとしてのICTを基盤としつつ、日本型学校教育を発展させ、2020年代を通じて実現を目指す学校教育」であり、具体的には「個別最適な学び」と「協働的な学び」を充実させていくことによって、すべての子どもを誰一人取り残すことなく育んでいくことを目指している。

「個別最適な学び」は、今回の答申の中核となる概念であり、これまでの子どもの興味関心を生かして自主的で主体的な学習を促していく「個に応じた指導」を、学習者の視点から整理したものである。答申では、特に発達や能力、家庭背景など多様な子どもの姿を前提としており、ICTを活用することによって、それぞれの子どもの適切な学び、すなわち「個に応じた指導」を充実することをねらっている。「個に応じた指導」において、特に一人ひとりの個に応じて指導方法や教材、学習時間などを提供することを「指導の個別化」といい、それぞれの子どもの興味関心に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供することを「学習の個性化」と呼んでいる。

そして、「個別最適な学び」が、孤立した学びに陥らないように「協働的な学び」が示されている。「協働的な学び」は、探究的な学習や体験活動を通じて、教師と子ども、子ども同士などのリアルな人間関係の中で達成されるものであり、子ども一人ひとりが具体的な他者とのやり取りの中で、それぞれの考え方のよさを認めつつ、また異なる考え方を組み合わせることでさらなる学びを生み出していくものであるといえる。

GIGA スクール構想のもと、教育活動に積極的に ICT を用いることで、新学習指導要領の着実な実施を目指していくのが令和の日本型学校教育であり、「個別最適な学び」と「協働的な学び」なのである。

【問 1】

本文において「個別最適な学び」と「協働的な学び」があげられているが、この両者を意識した教育実践にはどのような方法が考えられるか。あなたの考えを述べなさい。(400 字以内)

【問 2】

今後は ICT を用いた「個別最適な学び」が教育の一つの方向性になると考えられるが、「個別最適な学び」を進めていくにあたって注意すべき点はどこにあると考えられるか。あなたの考えを述べなさい。(400 字以内)

2. 次の2つの問いから1つを選択し、400字以内で説明せよ。**(解答用紙に、選択した問題の番号を記載すること)****【問1】**

高等学校の新学習指導要領において、「総合的な学習の時間」が「総合的な探究の時間」に改められるなど、現在の学校教育では探究型の学習が重視されている。探究型の学習とはどのようなものかを説明し、それが求められている背景について、あなたの見解を述べなさい。(400字以内)

【問2】

あなたが担任するクラスで、夜にゲームをしすぎて、授業中眠くなるなど、学業活動に支障をきたす児童生徒が複数いた場合、クラス全体への指導や、個人への指導をどのような点に留意して行うのが適切か、想定する学校種を明記して、あなたの見解を述べなさい。(400字以内)

3. 次の6つの用語の中から、3つを選択し、それぞれ 200 字以内で説明せよ。
(解答用紙には、選択した番号及び用語名を記入すること)

- ① 心理的虐待
- ② スクールロイヤー
- ③ ジェンダー平等
- ④ 真正の評価
- ⑤ 対話的な学び
- ⑥ 陶冶と訓育

2022年4月入学 教職研究科
社会人入学試験（2021年11月実施）

筆記試験(小論文)

試験時間

10 : 00 ~ 12 : 00

■受験にあたっての注意

1. 配布された冊子と受験科目が一致しているか確認してください。
2. 試験開始の合図があるまで、この問題用紙を開けてはいけません。
3. 下書き用紙はこの冊子の中に入っています。必要に応じて活用してください。
4. 解答はすべて解答用紙に記入してください。
5. 試験開始の指示があった後、本冊子の表紙及び解答用紙の全ページに受験番号、氏名を記入してください。
6. 本冊子も試験終了後に回収します。

受験番号	氏名

1. 次の文章を読み、論題に答えなさい。

2021年1月、中央教育審議会から『「令和の日本型学校教育」の構築を目指して：全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びの実現』（答申）が出された。この答申は、2019年4月より今後の初等中等教育の方向性を議論する中で、とりわけ新型コロナウイルスが学校教育に与えた影響も加味して、まとめられている。この答申では、2017年に告示された学習指導要領の確実な実施を前提とし、子どもたちの資質・能力を着実に育んでいくための方策が述べられている。

ここでいう「日本型学校教育」とは、歴史的に見て、日本の学校教育が学習面での指導だけではなく、社会性の涵養といった面においても指導や支援を行ってきたという、「知・徳・体」を一体として教育活動を展開してきたことを意味している。いわば、全人格的な陶冶を目指してきたのが日本型学校教育であるといえる。

しかしながら、答申では、これまでの日本の学校教育は、たとえば1989年の学習指導要領で「個性を生かす教育の充実」が謳われながらも、「みんなと同じようにする」といった画一的な教育から十分に脱することができていないこと、またこれまでコンテンツ（教育内容）ベースの教育を展開してきた結果として、「知識の習得」「正解主義」といった学習観から抜け出せずにいるという課題を指摘している。これ以外にも、日本の学校教育が直面している課題として、子どもの発達特性や社会背景等において多様化が進んでいること、学習意欲の低下、教師の長時間労働、Society5.0時代を見据えたICT対応への遅れなどをあげている。

これらの課題に対応するために打ち出されたのが、「令和の日本型学校教育」である。これは「ツールとしてのICTを基盤としつつ、日本型学校教育を発展させ、2020年代を通じて実現を目指す学校教育」であり、具体的には「個別最適な学び」と「協働的な学び」を充実させていくことによって、すべての子どもを誰一人取り残すことなく育んでいくことを目指している。

「個別最適な学び」は、今回の答申の中核となる概念であり、これまでの子どもの興味関心を生かして自主的で主体的な学習を促していく「個に応じた指導」を、学習者の視点から整理したものである。答申では、特に発達や能力、家庭背景など多様な子どもの姿を前提としており、ICTを活用することによって、それぞれの子どもの適切な学び、すなわち「個に応じた指導」を充実することをねらっている。「個に応じた指導」において、特に一人ひとりの個に応じて指導方法や教材、学習時間などを提供することを「指導の個別化」といい、それぞれの子どもの興味関心に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供することを「学習の個性化」と呼んでいる。

そして、「個別最適な学び」が、孤立した学びに陥らないように「協働的な学び」が示されている。「協働的な学び」は、探究的な学習や体験活動を通じて、教師と子ども、子ども同士などのリアルな人間関係の中で達成されるものであり、子ども一人ひとりが具体的な他者とのやり取りの中で、それぞれの考え方のよさを認めつつ、また異なる考え方を組み合わせることによってさらなる学びを生み出していくものであるといえる。

GIGA スクール構想のもと、教育活動に積極的に ICT を用いることで、新学習指導要領の着実な実施を目指していくのが令和の日本型学校教育であり、「個別最適な学び」と「協働的な学び」なのである。

【論題】

今後の学校教育には ICT の活用が不可欠となってくることが考えられる。本文を参考にしながら、ICT を活用し「個別最適な学び」と「協働的な学び」の双方が充実していくためには、どのような方法が考えられるか、また、その際に留意すべき点は何か、さらに ICT を用いることによって教師の長時間労働は解消されるのかについて、これまでの実務経験や勤務校の状況を事例としながら、あなたの考えを述べなさい。(1600 字以内)

2022年4月入学 教職研究科
一般入学試験（2022年2月実施）

筆記試験（専門科目）

試験時間
10：00～12：00

■受験にあたっての注意

1. 配布された冊子と受験科目が一致しているか確認してください。
2. 試験開始の合図があるまで、この問題用紙を開けてはいけません。
3. 下書き用紙はこの冊子の中に入っています。必要に応じて活用してください。
4. 解答はすべて解答用紙に記入してください。
5. 試験開始の指示があった後、本冊子の表紙及び解答用紙の全ページに受験番号、氏名を記入してください。
6. 本冊子も試験終了後に回収します。

受験番号	氏名

1. 次の文章を読み、問いにすべて答えなさい。

2021年10月6日に文部科学省で開かれた「第1回不登校に関する調査研究協力者会議（令和3年度）」において、同省が2020年に設置した不登校児童生徒の実態把握に関する企画分析会議による「不登校児童生徒の実態把握に関する調査報告書」（以下「実態調査」と略記）が資料として配布された。この「実態調査」は、2016年に制定された「義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する法律（教育機会確保法）」の第16条「国は、義務教育の段階における普通教育に相当する教育を十分に受けていない者の実態の把握に努める」という規定を踏まえ、不登校児童生徒への更なる支援の充実等について検討する上での基礎資料とするために行われた。

この「実態調査」の対象は、2020年度の小学6年生と中学2年生のうち、前年度に不登校であった者で、調査が実施された2020年12月の時点で学校に登校または教育支援センター（適応指導教室）に通所実績のある者とされた。協力の得られた7,161校を經由して22,009人に調査票が配布された。悉皆調査ではなく、回収率は約1割（児童生徒2,016人）にとどまったが、毎年度実施されている「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」（以下「諸課題に関する調査」と略記、引用する数値は2020年度のもの）とは異なり、児童生徒（一部の質問は保護者）が回答して調査実施業者に直接送付する形式で実施された点に特徴があるといえる。実際、2つの調査結果を比較すると、「実態調査」の結果には、学校教職員及び教育委員会の視点からの回答に基づく「諸課題に関する調査」とは異なる傾向がみられた。ここでは不登校の要因やきっかけについての質問に注目する。

まず、「実態調査」における「最初に行きづらいつ感じ始めたきっかけ」（複数回答）をみると、「先生のこと（先生と合わなかった、先生が怖かった、体罰があったなど）」が小学校で29.7%と最も多く、中学校で27.5%となった。また、「友達のこと（いじめやいやがらせがあった）」、「友達のこと（それ以外）」、「勉強が分からない（授業がおもしろくなかった、成績がよくなかった、テストの点がよくなかったなど）」、「生活リズムの乱れ（朝起きられなかったなど）」、そして「きっかけが何か自分でもよくわからない」の計5項目も小学校と中学校ともにそれぞれ2割台の回答がみられた。「身体の不調（学校に行こうとするとおなかが痛くなったなど）」は、中学校で32.6%と最も多く、小学校では26.5%であった。加えて、学校を休んでいる間に、学校に行きづらくなつた最初のきっかけとは別の理由も生じていたとの回答が小学校と中学校ともに3割を超えた。時間の経過に伴う変化や上記以外の選択肢の回答も少ないながら存在することを踏まえると、一人ひとりの不登校のきっかけや経緯は極めて多様といえる。

一方、「諸課題に関する調査」の結果に目を向けると、不登校の主たる要因として「いじめ」と判断されたケースは小学校で0.3%、中学校で0.2%、「いじめを除く友人関係をめぐる問題」が小学校で6.7%、中学校で12.6%、「教職員との関係をめぐる問題」が小学校で1.9%、中学校で0.9%となっている。いずれも上記「実態調査」において内容的にほぼ対応すると思われる選択肢の回答割合とはかなり開きがある。なお、「諸課題に関する調査」で最も多く回答された不登校の要因は「無気力・不安」であり、小学校が46.3%、中学校が

47.1%であった。教師の視点から捉えられた「無気力・不安」が、児童生徒本人の視点では学校（他の児童生徒及び教師との関係など）に起因しているものとして捉えられる場合も少なくないと推察される。

【問 1】

児童生徒本人の視点からの回答に基づく「実態調査」と、学校・教師の回答に基づく「諸課題に関する調査」との間で、不登校の要因に関する結果に大きな違いがみられた。その背景、原因などには何があると考えられるか。あなたの考えを述べなさい。（400 字以内）

【問 2】

日々の教育活動において不登校の未然防止や早期対応に取り組む学級担任の立場として、具体的にどのような視点を大事にしながら児童生徒の支援を行えばよいと考えるか。想定する学校種を明示した上で、あなたの考えを述べなさい。（400 字以内）

2. 次の2つの問いから1つを選択し、400字以内で説明せよ。

(解答用紙に、選択した問題の番号を記載すること)

【問1】

近年、「社会に開かれた教育課程」の重要性が指摘されており、例えば学校と地域社会との連携を行うことが考えられる。地域社会などの学校外との連携について、任意の学校種・教科等を取りあげ、どのような例が考えられるか、具体的に述べなさい。

【問2】

日本では18歳選挙権が導入されたことを契機に、さらに主権者教育が注目されている。主権者教育を進めていくにあたって、どのようなことに留意すればよいのか、あなたの考えを述べなさい。

3. 次の6つの用語の中から、3つを選択し、それぞれ 200 字以内で説明せよ。
(解答用紙には、選択した番号及び用語名を記入すること)

- ① パフォーマンス評価
- ② バーンアウト
- ③ アンコンシャス・バイアス
- ④ ギフテッド
- ⑤ 協働的な学び
- ⑥ 共感的理解

2022年4月入学 教職研究科
社会人入学試験（2022年2月実施）

筆記試験(小論文)

試験時間

10 : 00 ~ 12 : 00

■受験にあたっての注意

1. 配布された冊子と受験科目が一致しているか確認してください。
2. 試験開始の合図があるまで、この問題用紙を開けてはいけません。
3. 下書き用紙はこの冊子の中に入っています。必要に応じて活用してください。
4. 解答はすべて解答用紙に記入してください。
5. 試験開始の指示があった後、本冊子の表紙及び解答用紙の全ページに受験番号、氏名を記入してください。
6. 本冊子も試験終了後に回収します。

受験番号	氏名

1. 次の文章を読み、論題に答えなさい。

2021年10月6日に文部科学省で開かれた「第1回不登校に関する調査研究協力者会議（令和3年度）」において、同省が2020年に設置した不登校児童生徒の実態把握に関する企画分析会議による「不登校児童生徒の実態把握に関する調査報告書」（以下「実態調査」と略記）が資料として配布された。この「実態調査」は、2016年に制定された「義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する法律（教育機会確保法）」の第16条「国は、義務教育の段階における普通教育に相当する教育を十分に受けていない者の実態の把握に努める」という規定を踏まえ、不登校児童生徒への更なる支援の充実等について検討する上での基礎資料とするために行われた。

この「実態調査」の対象は、2020年度の小学6年生と中学2年生のうち、前年度に不登校であった者で、調査が実施された2020年12月の時点で学校に登校または教育支援センター（適応指導教室）に通所実績のある者とされた。協力の得られた7,161校を經由して22,009人に調査票が配布された。悉皆調査ではなく、回収率は約1割（児童生徒2,016人）にとどまったが、毎年度実施されている「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」（以下「諸課題に関する調査」と略記、引用する数値は2020年度のもの）とは異なり、児童生徒（一部の質問は保護者）が回答して調査実施業者に直接送付する形式で実施された点に特徴があるといえる。実際、2つの調査結果を比較すると、「実態調査」の結果には、学校教職員及び教育委員会の視点からの回答に基づく「諸課題に関する調査」とは異なる傾向がみられた。ここでは不登校の要因やきっかけについての質問に注目する。

まず、「実態調査」における「最初に行きづらいつ感じ始めたきっかけ」（複数回答）をみると、「先生のこと（先生と合わなかった、先生が怖かった、体罰があったなど）」が小学校で29.7%と最も多く、中学校で27.5%となった。また、「友達のこと（いじめやいやがらせがあった）」、「友達のこと（それ以外）」、「勉強が分からない（授業がおもしろくなかった、成績がよくなかった、テストの点がよくなかったなど）」、「生活リズムの乱れ（朝起きられなかったなど）」、そして「きっかけが何か自分でもよくわからない」の計5項目も小学校と中学校ともにそれぞれ2割台の回答がみられた。「身体の不調（学校に行こうとするとおなかが痛くなったなど）」は、中学校で32.6%と最も多く、小学校では26.5%であった。加えて、学校を休んでいる間に、学校に行きづらくなった最初のきっかけとは別の理由も生じていたとの回答が小学校と中学校ともに3割を超えた。時間の経過に伴う変化や上記以外の選択肢の回答も少ないながら存在することを踏まえると、一人ひとりの不登校のきっかけや経緯は極めて多様といえる。

一方、「諸課題に関する調査」の結果に目を向けると、不登校の主たる要因として「いじめ」と判断されたケースは小学校で0.3%、中学校で0.2%、「いじめを除く友人関係をめぐる問題」が小学校で6.7%、中学校で12.6%、「教職員との関係をめぐる問題」が小学校で1.9%、中学校で0.9%となっている。いずれも上記「実態調査」において内容的にほぼ対応すると思われる選択肢の回答割合とはかなり開きがある。なお、「諸課題に関する調査」で最も多く回答された不登校の要因は「無気力・不安」であり、小学校が46.3%、中学校が

47.1%であった。教師の視点から捉えられた「無気力・不安」が、児童生徒本人の視点では学校（他の児童生徒及び教師との関係など）に起因しているものとして捉えられる場合も少なくないと推察される。

【論題】

「実態調査」と「諸課題に関する調査」の結果の違いから見えてくる課題は何か。また、その課題を踏まえた上で、不登校児童生徒への支援（未然防止を含む）を充実させるためには、学校としてどのような取り組みが必要と考えられるか。重要となる具体的な校内組織・校務分掌等をいくつか挙げ、校内外の連携に言及しながら、あなたの考えを述べなさい。

（1600字以内）